

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Effectiveness of influenza vaccination in infants and toddlers with and without prior infection history: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

インフルエンザ感染既往のある小児に対するインフルエンザワクチンの効果:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Vaccine

年: 2021 DOI: 10.1016/j.vaccine.2021.02.044

筆頭著者名: 横道 洋司

所属UC名: 甲信ユニットセンター

目的:

大規模な子どものデータでインフルエンザワクチンの効果を測定すること。特に、インフルエンザウイルス感染歴のある子ども、上のきょうだいがいる子ども、保育園に通う子どもに対するワクチンの効果を測定すること。

方法:

エコチルコホートデータで各年齢での子どものワクチン接種歴、インフルエンザ感染歴を用いた。ポアソン回帰分析により相対危険(RR)を計算した。1-RRをワクチンによる感染リスク減少量として%により表示した。

結果:

1.5から3歳までワクチンの効果は21%から31%だった。上のきょうだいがいる、または保育園に通っている1.5歳から3歳児へのワクチンの効果は22%から40%だった。インフルエンザウイルスへの既感染者は次の感染リスクが非常に高かった。2歳から3歳の既感染者に対するワクチンの効果は19%から21%だった。

考察:(研究の限界を含める)

既にインフルエンザウイルスに感染していればワクチンを打つ必要性は少ないという意見がある。本研究から既感染の子どもに対してワクチンの効果が示されたことは重要である。また感染リスクが高いと考えられる、上のきょうだいがいる子どもや保育園に通う子どもに対しても効果が示された。このように大規模な人のデータでワクチンの効果が示された研究成果はこれまでほとんど無い。研究の限界としては、測定が親からの報告に依ったこと、ワクチン接種の回数を検討できていないこと、シーズン毎の流行株とワクチン株の対応を細かく検討できていないことが挙げられる。

結論:

日本の大規模出生コホートデータから、1歳から3歳児でインフルエンザワクチンの効果が示された。上のきょうだいがいても、保育園に通っていても、ウイルスに既感染であっても、ワクチンは効果を発揮していた。